

社会科学習指導案

4年3組 大屋 智

1. 単元名 「タイムスリップ～大和川をめぐる過去から未来への命のバトン～」

2. 研究主題

**価値判断・意思決定力しながら、未来を思考する力を育む社会科授業
～過去・現在の社会的事象に学び、未来を「そうぞう」する子どもたちを育む場の構成～**

(1) 単元について

本単元は社会科や理科，未来そうぞう科の教科横断的な学習を計画し，子どもたちにとって必然性のある学びを展開したい。昨年は異常気象により，集中豪雨によって川の氾濫や土石流など各地において見られ，社会問題となった。本校の近くにも「大和川」が流れ，大雨がある度に災害にあってきた歴史がある。そこで地域の河川を題材に単元開発を進める。

様々な地域から通学している子どもたちにとって「大和川」は身近な自然とは言い難い。2学期にも大和川を見学したが，子どものもつ興味や疑問は様々であった。そこで，3つの時代へタイムスリップする場を設定する。3つの時代とは今の地形とは異なる太古の時代や流町という町ができた中世，大和川の付け替えがあった江戸時代である。タイムスリップを通して大阪に住む人々の「命」のつながりを軸にして，大雨などの水がもたらす大地の変化やそこに住む人々の苦労や思いを探究的に学習していく中で，様々な教科の視点で「大和川」にアプローチしていく。そしてその学びを通して流れる水によって起こる大地の変化や大和川の付け替えという地域の発展に尽くした先人の様々な苦心や努力により当時の生活が向上したことなどを複合的に関連づけながら理解し，現在の大和川を捉えなおすことで，未来を見据え，防災などの大阪に住む自分ができることなどを考えていく。

(2) 単元の目標

主体的に学習に取り組む姿	<ul style="list-style-type: none"> 地域の開発や発展に尽くした先人に関心を持ち、それらの先人の具体的な業績を意欲的に調べ、誇りと愛情をもって地域の社会を見つめる態度を育むことができる。 対象に対して、過去の人々の思いと自分とをつなげて考えながら見通しを持ち、試行錯誤しながら解決しようとする。
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 大和川に関する諸問題を多角的・多面的に捉え、よりよい未来に向けて諸問題を解決する方法を考えたり、考えたことを他者に発信したりし続けることができる。
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 過去の人々の洪水に苦しむ思いや、大和川の付け替えに苦心したこと、付け替え工事に尽力したこと、付け替え後の新たな問題について、調査をしたり、資料を活用したりして、大阪の発展に尽くした先人の苦心や努力を調べ、価値判断・意思決定しながら理解することができるようにする。

(3) 活動構成の仮説



①教科横断的な学習に未来そうぞう科の評価の視点を用いることで創造的実践力の育成につながる。

社会や自然に目を向けたとき，その枠組みを指導者側が理科として捉えた場合，子どもにとって必然性のある学びに各学年の既存の学習内容，理科のねらいなどの視点で制約がかけられてしまい，本校がめざす3つの資質・能力を育みにくい。教科の枠に留まらずに学習内容を編成し直し，未来そうぞう科の評価の視点を用いることで，創造的実践力の育成につながると思う。

②対話を意識した単元展開や場面を設定することで協働的実践力を高める

子どもたちが社会的事象をより深く理解したり，考察・構想したりには，子ども同士の対話，資料との対話，その事象に関わる人たちとの対話が重要である。それらを単元展開に組み込み，多角的・多面的に物事を捉え，子どもが価値判断・意思決定できるように教師が発問を工夫し協働的実践力を高める。

3. 指導計画（全 26 時間 本時 14 時間目）

学習活動と子どもの意識			社会科としての評価 ㊦ ㊧ ㊨	創造的実践力を高めるしかけ		
社会科	未来そうぞう科	他教科		見通し	発信	レジリエンス
<p>1. 大和川の見学で不思議を出し合う。①</p> <p>大和川の洪水や付け替え工事はどんな様子だったのだろうか。</p> <p>洪水になった時の対策は何かしているだろうか。ゴミへの対策はしているのだろうか。</p> <p>なぜ大和川は曲がっているのかな。流れがゆっくりになのはなぜかな。</p>			<p>㊦ 大和川や柏原市資料館を見学したことを想起し、その時に感じた疑問から、学習計画を立てることができる。</p>			
<p>【過去パート】 3つの時代へタイムスリップ</p>						
<p>・平野のでき方の再現</p> <p>今とは全然、地形が違うよ。大和川も流町も存在しない。</p> <p>昔の地図には、大阪平野がなくて、大きな池みたいになっているね。</p> <p>どうやって、大阪平野はできたのかな。</p>	<p>2. 約5500年前～2000年前へタイムスリップ④</p> 	<p>・地図の資料の読み取り</p> <p>今の大阪平野のでき方を砂場で一度、作ってみよう。</p> <p>水は高い所から低い所へ流れていくんだね。</p> <p>水と一緒に土も運ばれていくんだね。大阪平野は長い年月をかけてできたものなんだ。</p>	<p>㊧ 大阪府の地形ができあがる過程について、5000年前と現代の地図で調べ、大阪平野や川の成り立ちについて理解することができる。</p>	<p>砂場による地形の再現 ●試行錯誤（主）</p>	<p>流町への資料の読み取り ●過去の人の思いと自分をつなげる（主）</p>	<p>ロイロノートへの蓄積 自他の考えや実験結果（動画）をためていく。 ●相違点を見つける（協）</p>
<p>大きな池があったということは洪水に巻き込まれていた人々も多かったかもしれないな。次の時代へタイムスリップしたいな。</p>						
<p>・流町の資料の読み取り</p> <p>今とは地形が似てきているいな。</p> <p>よく見ると流町ができたのはこの時代みたいだな。</p> <p>昔、副校長がこの町は洪水で町が流されていたから「流町」というと教えてくれた。</p> <p>流町の近くに平野川が通っている。なぜ洪水が起きたの</p>	<p>3. 流町ができた戦国時代へタイムスリップ</p> 	<p>・流町と平野川の洪水の再現</p> <p>カーブのところが洪水を起こしそうだ。</p> <p>川幅の細いところや川の深さも関係しているのかな。</p> <p>水の量が多いと、すべてを流してしまうんだね。これが実際に起こるとしたら怖い。</p>	<p>㊨ 戦国時代の流町について、その成り立ちや当時の大阪の水害の様子を年表や文書資料で調べ、当時の暮らしについて、考えることができる。</p>	<p>ハザードマップ作成 ●見通しをもつ（主）</p>		
<p>流町に住む人々は何度も大きな被害があつてつらい思いをしてきたんだね。それでも流町の人たちは生きるために水はなくてはならないものだったみたい。</p>						

